

応援する〈長崎大学と多様性 Vol.3〉(2021 年 10 月 5 日)

おはようございます。

長崎大学人、河野茂です。

私は、歩いている時に、9 月末まで下記のアプリを使っていました。

<https://www.meijiyasuda.co.jp/enjoy/ld/kenkatsu/project/walking>

歩いた距離により、個人ランキングが出て、自動的に好きなサッカーチーム（もちろん、V・ファーレンですが）を応援する仕組みです。9 月の成績は 2461 人中 4 位でした。このアプリの良いところは、自分の具体的な行動が、他者への間接的な応援となっているところでしょう。話を無理やりくつつけますが、ダイバーシティの取り組みも同じようなコンセプトだと思います。大学の具体的な取り組みが、学生や教職員への応援につながっていることです。

本日は、文科省より高く評価された本学の『多様性』について、ダイバーシティ推進センター センター長・教授 吉田 ゆり先生に解説して頂きます。

---

第 48・49 回の学長からの「多様性」実現のメッセージを受け、今回は本学が文部科学省からも多様性の成果が高い評価を受けておりますことをご紹介します。文部科学省は令和 3 年度国立大学運営交付金各 KPI による評価結果を通達しました。運営交付金は現代の国立大学が重点課題とする 12 の共通指標による評価を行う傾斜配分を行っています。このうち「9. ダイバーシティ環境醸成状況」において本学は、昨年度 11 位（配分率 110%）から大きく飛躍し、5 位（配分率 125%）となり、高い評価を受けました。本指標は、教員の状況として「外国人教員」「女性教員」「障害者雇用」比率、学生の状況として「障害学生」「留学生」「社会人学生」比率の 3 つ、計 6 つの偏差値で評価されます。このうち偏差値の最も高い女性教員比率と障害学生比率の二つを考察します。

障害学生比率は、障害学生の在籍率が全国平均を 0.4 ポイント上回り偏差値 65 です。ただし障害のある高校生が評判を聞きつけて続々入学、という事ではありません。主に精神障害・発達障害の可能性を保健センターのメンタルヘルス健診により明確化し、障がい学生支援室との連携を背景に、各学部・研究科の先生方が学生の現状に目を向けたことで障害学生を早期に把握でき、支援を積極的に進めたことに尽きると考えています。先生方から障がい学生支援室にご相談頂き合理的配慮の提供と積極的な支援を進め、学生も相談しやすい体

制になってきたと考えられます。

女性教員比率は、女性教員 24%弱、全国平均を 1.7 ポイント上回り偏差値 57 です。これも各部局・部署の皆さんが教員構成の多様性を意識的に推進してくださっている結果かと存じます。ご批判もありますが、少しずつ学内の風向きが変わってきていることを感じています。女性教員比率は、ワークライフバランスや働き方見直しの実現と両輪であり、働きやすい職場達成度指標でもあります。全国的にも女性教員比率 30%達成を掲げる大学も増え、さらなる推進が求められます。

運営費交付金の傾斜配分は、国が考える国立大学の方向性を各大学がどのように具現化しているかという、大学の評価そのものです。今回は高い評価となりました。しかしなんとなく時がくれば解決するものではなく、単独部局・部署の努力ではこの問題は解決しません。多様性のない組織は成長しない。学長の強いガバナンスとポジティブアクションの提示、全学の取り組みによる自分たちのためのダイバーシティ推進にならない限り、長崎大学の多様性の実現はしません。今後ともご意見をお寄せいただければと存じます。

(ダイバーシティ推進センター 吉田ゆり)

---

吉田先生、ありがとうございました。気づいたら、今回で、50 回目となりました。読んで頂きありがとうございます。一歩、一歩、一文、一文、継続は大事だと再確認しました。ご意見お待ちしております。

長崎大学 学長 河野 茂